

【開会 午後1時30分】

1 開 会

2 競輪事業部長挨拶

○林部長 本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、皆様方におかれましては、日頃より当競輪事業部の運営に対しまして、ご理解とご協力をいただいていることを、深く御礼申し上げます。

さて、昨今の競輪業界は、GⅠ、GⅡなど、ビッグレースの売上げの低下に歯止めがかからず、厳しい状況が続いております。そのような中で、ミッドナイト競輪の売上げは少しずつ上昇しておりまして、先般、発表された平成30年1月から12月までの全国の競輪業界の売上げ集計によりますと、対前年比で101.5%となる、約6,495億6,300万円を売上げ、微増ではありますが、5年連続で前年を上回ったところであります。

一方、函館競輪につきましては、平成30年度は4月11日に開幕し、6月にGⅢグレードのいわゆる記念競輪を初めてナイターで開催させていただきました。また、函館発祥のナイター競輪が10周年の記念の年に当たり、スターライトクラウンというGⅢグレードのナイターレースも開催させていただきました。多くのお客様にご来場いただきまして、盛況のうちに終了することができました。

しかしながら、9月6日に発生し、つい最近も発生した、北海道胆振東部地震の影響によりまして、大規模停電が発生したことにより、函館競輪の場外発売ができなくなり、さらに9月のFⅠとFⅡ2本のレースが残念ながら中止になってしまいました。

その結果、売上げにつきましては、当初の目標160億円を大きく下回る138億円にとどまり、予算比22億円の減となっております。

ただし、決算の見込みでは、様々な経費の節減、工夫をいたしまして、なんとか赤字にならず、若干の黒字で決算を迎えられる見込みとなっております。一般会計への繰り出しもできる予定でございますし、一般家庭で

いうところの貯金にあたる基金も若干積み増せると見込んでおります。

自然災害が原因とはいえ、この結果は非常に残念であります。今後とも危機管理には徹底して取り組んでまいりたいと考えております。

来年度は今まで以上に、事業展開を積極的に行い、頑張っていきたいと思っております。その一環として、ミッドナイト競輪を函館では始めて開催させていただくことになりました。本日もご来席いただいておりますが、千葉町会長様はじめ近隣自治会の皆様、そして近隣施設の皆様から各種の多大なるご協力いただきまして、なんとか来年度から開催できる運びとなりました。

今後とも、話題性の高いレースなどを組み入れながら、さらに積極的な事業展開に努めてまいりたいと考えておりますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げたいと思います。

本日は限られた時間ではございますが、皆様方に色々なご意見をいただきながら、私どもも勉強してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は、限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

3 協議事項

○事務局 函館市自転車競走条例施行規則第5条に基づき、会長が議事進行を務めることとなっているが、任期満了に伴う委員の交代により、会長、副会長が空席となっている。会長が選出されるまでの間、競輪事業部長の進行で会議を進めたい。

(各委員：異議なし)

(ア) 函館市競輪運営協議会の会長および副会長の選出について

(資料1 ページに基づき米谷事業課長から説明)

○米谷課長 函館市自転車競走条例施行規則第4条第2項に基づき、会長お

よび副会長は委員の互選となっている。

○林部長 事務局から説明があったとおり，会長および副会長は委員の互選となっている。どのような方法が良いか。

○千葉委員 事務局一任が良いのではないか。

○林部長 千葉委員から事務局一任とのご意見があったが，皆様はいかがですか。

(各委員：異議なし)

○林部長 であれば，事務局から会長，副会長の選出案はあるか。

○米谷課長 事務局としては，会長には長年就任していただいている今井委員，副会長には地元町会の千葉委員に引き続きお願いしたいと思っている。

○林部長 事務局からは会長は今井委員，副会長は千葉委員にお願いしたいとのことだったが皆様いかがですか。

(各委員：異議なし)

(イ) 平成30年度自転車競走事業特別会計補正予算(案)について

(資料2～5ページに基づき米谷事業課長から説明)

○今井会長 質問等ないか。

(各委員：特になし)

(ウ) ミッドナイト競輪の実施について(案)

(資料6～7ページに基づき米谷事業課長から説明)

○今井会長 質問等ないか。

○穴田委員 ミッドナイト競輪は現在19場，来年度は22場で行われる見込みとのことだが，他場と開催が被ることはないのか。また，ミッドナイト競輪の車券はインターネットや電話投票で購入できるが，購入者自体が増えないと限られたパイの取り合いで終わってしまうのではないか。

○米谷課長 ミッドナイト競輪の開催場は増加傾向にあり，競合した際にどのような状況になるかは，ミッドナイト競輪協議会の方で，各競輪場が平等

な日程になるよう案分され、調整されております。また、売り上げに関しても、過去の競合状態の売り上げ状況を見ると、おおむね黒字であり、それなりの収入が見込まれております。

○穴田委員 ナイター競輪と同じ轍を踏むのではないかと懸念している。ナイター競輪は函館が発祥であるが、現在は多くの競輪場で競合状態にあり、売り上げも落ちている。ミッドナイト競輪は3～4年前に小倉競輪場が初めて行ったが、現在は競合が増え、売り上げが落ちはじめている。車券の購入者自体が増えれば別だが、現状の競輪場の数が維持され、ミッドナイト競輪が行う競輪場がさらに増えれば、ナイター競輪と同様厳しい状態になる。函館競輪場にとって、ナイター競輪は先駆者の立場であったが、ミッドナイト競輪では後発であり、ナイター競輪当初の利益を望めるわけではない。将来的にも函館競輪場を残していくつもりがあるのであれば、函館競輪場に観客を入れ、選手が実際に走る姿を見せて、市民の方々に競輪を理解してもらうことが本来のあり方ではないか。（※ミッドナイト競輪は無観客レース）

目先の利益、市の一般財源に繰り入れることが大切なのはわかるが、将来的な視点が欠けているのではないか。ナイター競輪を行う競輪場が増えたことで、ミッドナイト競輪を行うための照明等の条件を備えた競輪場が増えた。結果的に、ミッドナイト競輪も現在のナイター競輪と同様に他場との競争が激しくなるのは目に見えている。将来的に、函館競輪場が生き残るためには、ファンにレースを生で観戦してもらい、市民にご理解いただく機会を作って、競輪に関わる100社以上の業者との関係性も持続させていかななくてはならないのではないか。

○林部長 頂戴したご意見、その通りであります。ミッドナイト競輪に参入している競輪場は年々増えており、函館競輪場はどちらかという後発で参入した状況もあり、今後の売上げの伸びはなかなか厳しいという実感があります。ナイター競輪に参入し、照明等の設備を備えた競輪場が増えたことから、ナイター競輪、ミッドナイト競輪の日程が過密になっており、

逆に日中，モーニング（早朝）に開催するレースの売上げが伸びている状況が見受けられます。ナイター競輪の発祥の地である函館は，今年度はオールナイター開催であり，今後も軸足はナイターに置いていきたいと，強く思っております。一方で，ファンの皆様に喜んで頂くのはもちろんであります。売上げを伸ばし，市民の方々へ還元していくことも大きな使命でございます。その中で，色々な手法を探っていきたいと思っております。昨年度，穴田委員からご意見頂いた企画レースやGⅠ，GⅡなどのビッグレースの誘致にも力を注いでいきながら，安定的な競輪運営に努めていきたいと考えております。もう一点，雇用のお話につきましては，昨年，地震に伴う停電の影響でFⅠ，FⅡの開催が中止になりましたが，新年度に，中止になった開催分を追加で行わせて欲しいと競輪関係団体へ要望し，認めていただくことができました。通年に比し，2開催分純増の日程になります。通常であれば，GⅢが1本，FⅠが7本，FⅡが8本ですが，来年度はGⅢが1本，FⅠが8本，FⅡが9本となります。しかしながら，来年度はミッドナイト競輪に参入します。ミッドナイト競輪はFⅡが1本減る代わりにミッドナイト競輪を2本できる仕組みであり，GⅢが1本，FⅠが8本，FⅡが6本，ミッドナイトが6本となります。ただ，ミッドナイト競輪含め，2020年度以降の日程は未定であり，皆様方とご相談をさせて頂きながらまた決めていきたいと思っております。たしかに，ミッドナイト競輪を行うことで，勤労者の就労回数が減るとお思いになるのはもっともですが，来年度に関しましては，そのようになることはありません。今後につきましても，皆様方から様々なご意見を頂き，そのご意見を基に，方針を決めていきたいと考えております。

○穴田委員 将来的に，ミッドナイト競輪を増やすのではなく，ナイター競輪を中心に行うとのことですから，そのことを念頭に置いていただき，売上げが上がるような取組みを行って，函館市，函館地域の企業，また雇用へ還元し，調和を図りながら事業を行っていただきたいと思っております。

(イ) 平成31年度函館競輪上期開催日程（案）について

（資料8ページに基づき米谷事業課長から説明）

○今井会長 質問等ないか。

○穴田委員 日程の中に、以前の藤巻兄弟杯、来年度からは藤巻昇杯に加えて、俵信之杯が新設されたようだが、その説明をいただきたい。

○林部長 来年度5月16日～18日に藤巻昇杯がありますが、今年度までは藤巻兄弟杯であり、2人の兄弟選手を称えたレースでありました。兄の藤巻昇様は函館在住ですが、昨年、名輪会に入会され、名輪会の冠を付けていただくことになりました。弟の藤巻清様は名輪会に入会されていなく、ご兄弟に相談したところ、昇様の名前だけの開催で構わないとのご回答をいただきました。このような経緯があり、新年度から開催名を変更させていただきますと思います。

また、7月19日～21日に開催される俵信之杯についてですが、俵信之様は函館出身、函館在住で、GI優勝経験もあり、昨年、惜しまれながら引退された有名な選手です。引退されたことを機に、選手会北海道支部からの推薦、全国の競輪組合からの声もあり、新たに名を冠した開催を開設させていただいた次第です。俵信之杯はFIグレードですが、一般的にはスーパーFIと呼ばれており、FIグレードの中でも特に重きを置いて開催されるレースとなります。

○穴田委員 少し補足させていただきますと、名を冠した開催を作るためには、特別競輪での優勝が条件になります。藤巻昇様、藤巻清様、俵信之様、いずれも特別競輪で優勝されています。また、俵信之様はオーストリアのウィーンで行われた世界選手権で優勝し、世界チャンピオンにもなっています。中野浩一様が10連覇した後に優勝しています。

(オ) 平成31年度自転車競走事業特別会計予算（案）について

（資料9～13ページに基づき米谷事業課長から説明）

○今井会長 質問等ないか。

- 今井会長 一般会計繰出金というのは函館市の歳入になるお金だと思うが、基金積立金というのは、用途として、施設改修費では賄いきれない大きな工事のために使われるのか。
- 林部長 お見込みのとおりであり、基金積立金は市議会の議決を経てからでないと使うことができないものであります。
- 二階堂委員 収支状況推移によると、平成27年度、平成28年度の単年度収支が他年度と比べて多いが、その理由は何か。
- 米谷課長 平成27年度は、GⅡグレードのサマーナイトフェスティバルを開催できたため、売上、収支共に良く、平成28年度は、包括委託先である日本トーター株式会社からの収益保証がありました。
- 穴田委員 サテライト松風の単年度ごとの収支の状況はどうなっているか。サテライト札幌・石狩・男鹿は、函館競輪場で発売している車券以外にも売ることができるが、サテライト松風は函館競輪場の専用場外であり、函館競輪場が発売していない場外発売は売ることができない。サテライト松風は函館市が補填しないとやっていけない状況なのか。
- 米谷課長 サテライト松風の収支については、昨年度は約5,000万円の売上があり、収益は400万円出ている状況です。
- 穴田委員 競輪開催等業務に係る包括委託先である日本トーター株式会社は、函館市に各年2億円の収益保証をする契約を結んでいるが、サテライト松風の存在は日本トーター株式会社にとって収益上マイナスの存在ではないということか。
- 林部長 お見込みのとおりです。
- 穴田委員 過去、サテライト松風の売上が落ち、収支がマイナスの時期があった。その際に、サテライト松風をなくした方が函館市にとって良いのではないかと議論があったと記憶している。また、サテライト松風にとっても、函館競輪場の専用場外であるために、他競輪場開催の車券を自由に売ることができず、専用場外であることが経営の足枷になっていた。しかしながら、現状、サテライト松風の収支は400万円のプラスということ

であり、サテライトの存在は地域の発展にも寄与するだろうから、函館市にとって好ましい状況であり安心した。

○今井会長 事務局，委員から何かあるか。

(事務局・各委員：特になし)

=以上をもって終了=